

教科・科目		対象学年	単位数	教科書（発行者）	補助教材（発行者）
芸術・美術 I		1 年	2	美術 1 (光村図書)	各種ワークシート
科目の概要と目標		<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>			
授業の進め方		<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心・能力などをふまえて題材を選定し、学習意欲をもてるようにする。 生徒個々の制作に対する思いや考えを汲み取るため、課題設定の意図や概要を十分に解説しながらコミュニケーションを図る。 ICT 機器を効果的に活用し、題材に関連する多様な作品や資料を提示したり、視覚的な刺激を与えたりすることで、生徒の発想や表現の幅を広げる。 用具の使い方や表現方法を実演し、生徒が表現の工程を具体的に理解して、意欲的に活動に取り組めるようにする。 			
評価の観点と方法		<p>① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題作品 ワークシート・プリント、鑑賞カード、鑑賞課題レポートなどの提出物 制作態度 などを含めて総合的に評価する。 			
	学期	単元・学習項目		学習内容・到達度目標	
授 業 内 容	1 学 期	○オリエンテーション		<ul style="list-style-type: none"> 作品の多様な表現に関心をもち、創造的に表現することの意味や価値があることを知り、改めて美術の表現について考えることができる。 出題意図を理解し、伝えたい内容や構成を考えて、ラフスケッチで整理することができる。 アイディアスケッチをもとに、画面構成や文字配置を整えて下描きを行うことができる。 配色や強調の工夫を意識しながら、メッセージが伝わるように着色することができる。 完成作品を鑑賞し合い、作品の良さや工夫点を伝え合うことができる。 	
		○「日本の伝統色」 ○「日本の伝統文様」 ○「日本の家紋をデザインの視点で観る」 ・ワークプリント		<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統色に関心を持ち、分類された色の成り立ちや意味を知ることができる。 日本の文様や家紋の図柄に関心を持ち、解説を得たところでプリントに文様チップを貼り合わせ、名称とその成り立ちを知ることができる。 	
	2 学 期	○「カプセルトイサイズの埴輪作り」 ・アイディアスケッチ ・造形制作 ・相互鑑賞		<ul style="list-style-type: none"> 出題条件を深く理解し、参考作品から得た着想と素材への関心を持って、独自の造形表現に取り組むことができる。 埴輪の歴史的背景や形態的特徴を理解し、それらを踏まえた表情やポーズのアイデアをスケッチで表現することができる。 大きさを考慮し、細部まで表現をすることができる。 完成した作品を鑑賞し合い、形や表情などの表現の工夫について意見を交わすことができる。 	
○「静物画」 ・デッサン ・油彩 ・鑑賞カード		<ul style="list-style-type: none"> 静物の大きさ、形や構成、明暗の関係をよく観察し、全体のバランスを意識して下描きをすることができる。 デッサンをもとに、色彩や質感、光の表現を工夫しながら油絵具で描き進めることができる。 制作意図や工夫した点、作品の魅力を文章で振り返ることができる。 			
3 学 期	○「美術鑑賞」 ・注目される企画展より		<ul style="list-style-type: none"> 作品の良さや表現の工夫に着目し、感じ取ったことや考えたことを自分なりの言葉で表すことができる。 		
		○「写真表現」 ・構想やテーマの設定 ・室内から屋外、校舎敷地内での撮影 ・相互鑑賞		<ul style="list-style-type: none"> 表現したい意図を明確にし、主題を引き立てる被写体や効果的な構図を創意工夫することができる。 構想に基づき、光の効果や構図のバランスを意識しながら、タブレット端末を用いて適切に撮影することができる。 互いの作品を鑑賞し、良さや工夫点を言葉や文字で伝え合うことができる。 	